

「いじめといのちについて考える日」 校長講話

新年度がスタートして1か月が経ちました。校長先生自身もそうですが、新しい人間関係の戸惑いや不安や緊張が一つの間にかなくなって、ようやく普段どおりの生活に戻ったのではないでしょか。毎日の授業・部活動とさまざまな行事。全員が安心して有意義な学校生活を積み重ねていってほしいです。

さて、その全員が安心して有意義な学校生活を積み重ねるということにつながるのですが、今日は「いじめについて考える日」です。少なくとも年に1回、すべての大阪市立の小中学校でおこなうことになっている取り組みです。正確には「いじめといのちについて考える日」ですが、ピントがぼやけないように淀中学校では「いじめ」にしぶって話をします。それは結果的に「いのち」を大切にすることにつながるはずです。

今日の校長先生の話の結論は、「淀中学校を『いじめ』のない学校にする」です。

昨年度までは、小学校低学年の小さい子どもたちを相手に、どのような言葉で話せば伝わるかとずいぶん悩みましたが、みなさんは中学生なので、ストレートに伝えたい要点を3つ伝えることにします。

●要点1：「いじめ」とは何か？

「人に嫌なことを言ったり、人に嫌なことをしたりして、攻撃すること」---これが「いじめ」だと校長先生は考えています。多数で1人を攻撃するだけではなく、1人で1人を攻撃しても、あるいは、まったく自分に攻撃する気がなかったとしても、嫌なことを言ったり嫌なことをした事実があり、された人が苦痛を感じれば、それは「いじめ」です。

●要点2：「いじめ」について、全員で共有したい考え方

「いじめ」はどのような理由があっても許されない。この考えを全員で共有したいです。怖い言葉をつかいますが、人を殺すことがどのような理由があっても許されないように、人のものを盗むことがどのような理由があっても許されないように。同じように、「いじめ」はどのような理由があっても許されない。この考えを全員で共有したいです。

●要点3：その考え方の理由

「いじめ」は、人の安心を奪うからです。場合によっては人の命さえ奪うからです。人の安心や命を奪う権利なんて誰にもありませんし、そのようなことが許される理由なんてどこにもありません。

以上、3つの要点を今日はしっかりと理解して確認してほしいです。

---というか、きっと淀中学校のみなさんは、校長先生が言うまでもなく、この3つの要点を理解してくれているはずです。また、淀中学校だけではなく、どの学校の子どもたちもおそらく同じように理解していると思います。

ところが---実際には「いじめ」はなかなか無くなりません。なぜでしょう？

それは、人間の心の中に、人をいじめることで優越感（自分のほうが上という気持ち）を感じたり、人をいじめることでいじめているものどうしが仲間意識を感じたりする悪い心が潜んでいるからだと考えています。

人をいじめることで優越感や仲間意識を感じるなんて、悪い心であるだけではなく、醜くて恥ずかしい心です。だから、そんな心が表れてこないように、「いじめ」はどのような理由があっても許されないと全員で共有して考えるべきだと思います。

淀中学校が、優しい気持ちがあふれ、「いじめ」のない学校でありますように。